

令和 2 年 5 月 17 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H05671

研究課題名(和文) インド洋フランス語系クレオール民話の口演の研究

研究課題名(英文) Oral presentation study of French Creole folktales in the Indian Ocean

研究代表者

小田 淳一 (Oda, Junichi)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：10177230

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,800,000円

研究成果の概要(和文)：インド洋西域のレユニオン島で専門的な語り手による民話の口演を収録し、そのうちの二十五編をクレオール語/日本語の対訳形式で刊行した。また、翻訳の過程で抽出した特徴的なモチーフや民俗語彙、さらに聴衆とのインタラクティブな言語表現や身体表現の分析を行い、学会で報告を行った。さらにアウトリーチ活動として、レユニオン島の語り手を2名を招聘して、我が国で初めてインド洋民話の一般向け口演を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド洋西域島嶼世界の文学所産は我が国では一般に殆ど知られていなかったが、研究代表者小田によって2014年から2016年にかけて幾つかの島嶼の民話集が原語と日本語の対訳形式で刊行されており、本研究ではその集大成としてインド洋西域の文化的中心地であるレユニオン島の民話集を同様の形式で刊行した。また、現地の語り手を招聘して日本で行われたワークショップについては、現地メディアなどでも大きく取り上げられ、フランス本土では等閑視されている当該地域のクレオール民話に対する我が国のコミットが高く評価された。

研究成果の概要(英文)： We recorded the performances of professional storytellers on Reunion Island in the Indian Ocean and published twenty-five bilingual folktales in both Reunionese Creole and Japanese. From these folktales, we extracted and analyzed distinctive motifs, folk vocabulary, and interactive verbal and/or physical expressions between storyteller and audience. Moreover, we invited two storytellers from Reunion Island to hold a workshop on the performance of Indian Ocean folktales. This was the first time such a public outreach took place in Japan.

研究分野：文学

キーワード：文学一般 民話 クレオール レユニオン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の主な対象地域であるレユニオン島はインド洋西域でフランス語系クレオール語が話されている島嶼世界のひとつであり、フランスによる十七世紀以降の植民地経営に伴ってアフリカ、インド、中国などからの移民が大量に流入し、民族的・文化的混淆が世界の他地域で類を見ないほど進んでいる。そのような世界における口承の文学所産である民話もまた歴史的・文化的背景を如実に反映しており、多種多様な物語要素が混淆している。当該地域の民話に関する国内の研究については、人類学分野において口承テキストを用いた研究は存在するものの、文学分野において民話を取り扱ったものは、研究代表者小田が代表者を務めた基盤研究(A)「インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究」(H23~H27年度)以外は皆無である。一方、国外ではインド洋西域の広い地域についての研究は「旧宗主国」であるフランス本土の研究機関で精力的に行われているが、本研究が主な対象とするレユニオン島のクレオール語による民話はアカデミズムの世界では等閑視されており、本研究課題で収集した民話の現地への還元は文化的国際貢献として位置付けられる。

2. 研究の目的

本研究課題はインド洋のフランス語系クレオール民話を対象として、市井の人々の語りではなく職業的語り手による口演を収録し、そのテキスト化(文字起こし)と日本語訳を行い、対訳形式で刊行することを第一の目的とする。次いで、市井の人々と職業的語り手との比較分析を、語りの物語内容と物語表現という二つのレベルで行う。物語内容レベルでは当該地域の島嶼群全体におけるモチーフの伝播と変容を情報生物学的手法を用いて分析することを試み、また物語表現レベルでは特に、口演というジャンルに特有の聴衆との相互コミュニケーションにおける身体性を含む様々な話芸の特徴を修辭学的に明らかにすることを試みる。

3. 研究の方法

(1) 民話の収集と翻刻・翻訳・刊行

インド洋西域島嶼地域にあるフランス共和国海外県のレユニオン島において職業的語り手による民話の口演を収録する。

収録した民話を現地の原語であるレユニオン・クレオール語のテキストに書き起こす。

民俗語彙や民話特有の表現を正確に捉えるために当該地域の公用語であるフランス語に翻訳する。

民話集刊行のためにレユニオン・クレオール語のテキストを日本語に翻訳する。

テキスト中の不明な箇所などについて、現地のそれぞれの語り手に直接確認を行いテキストを確定する。

収録した民話を、レユニオン・クレオール語と日本語の対訳形式で刊行する。

(2) 民話の分析

民話の口演テキストからモチーフ群の抽出を行う。モチーフの抽出に際してはステイス・トンプソンのモチーフ索引体系(Stith Thompson, *Motif-Index of Folk-Literature*, revised and expanded version, 1955-1958, Copenhagen: Rosenkilde and Bagger)との照合を行う。

映像データから、語り手に特有であると思われるインタラクティブな身体表現を抽出する。

市井の語り手のテキストとの比較を通して、職業的語り手の口演に特徴的な傾向を明らかにする。

(3) 学会等での成果の報告

各年度の調査及び分析結果について各種学会で成果報告を行う。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

レユニオン島の各地域において職業的語り手14名から延べ40話余りを映像及び音声で収録し、そのうち25話をレユニオン・クレオール語と日本語の対訳形式で『レユニオンの民話』として、研究代表者小田の所属機関である東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から刊行した。本書に集録した民話の語り手は次の通りである(姓名のABC順)。ジャン＝ピエール・アカパンディエ(Jean-Pierre ACAPANDIÉ)、ブリュノ・バノル(Bruno BANOR)、セリーヌ・バレ(Céline BARRET)、ダニエル・ベルジョー(Daniel BERGEAULT)、パトリシア・シャマン(Patricia

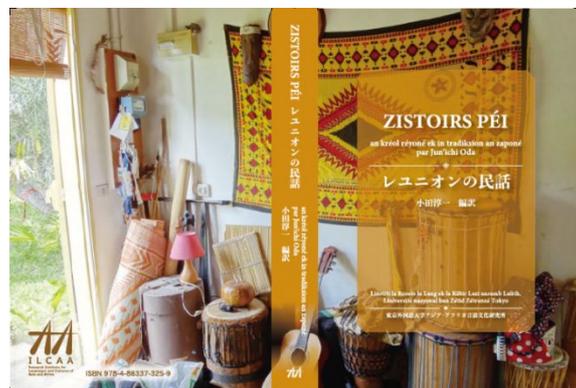


図1 『レユニオンの民話』の書影

CHAMAND) ,シュゼル・キュヴリエ(Suzelle CUVELIER) ,ブルティー・デュバル(Beurty DUBAR) ,ダニエル・オノレ(Daniel HONORÉ) , テディ・イアファール(Teddy IAFFARE) , ジャン＝ベルナル・イファノイザ(Jean-Bernard IFANOHIZA) , イザベル・メツゲル＝シヨン(Isabelle METZGER-CILLON) , グザビエ・リヴィエール(Xavier RIVIERE) , リュコ・ソートロン(Luco SAUTRON) , ジョゼット・サヴィニー(Josette SAVIGNY)。

UDIR (レユニオン・アイデンティティ擁護協会) が主催した、語りの基本的な技能の習得や、オリジナルの伝統的民話に触れることで民話を巡る文化的な広がりをも身につけることなどを旨とした、語り部養成のための研修内容の一部を当協会の許可を得て収録した。これによって、語りの収録だけでは捉えられない、実践的な文化施策としての「語り」の位置づけを確認することができた。

2017年11月にレユニオン島から二名の職業的語り手を招聘し、研究代表者小田の所属機関である東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・情報資源利用研究センター主催による当センター設立20周年記念国際ワークショップを二回に亘って開催した：

11月17日「インド洋レユニオン島の音楽と民話」

(<https://irc.aa.tufs.ac.jp/event/ircws-2017-03.html>)

11月21日「話芸の競演：インド洋レユニオン島の民話 VS 古典落語」

(<https://irc.aa.tufs.ac.jp/event/ircws-2017-04.html>)

このうち11月21日に開催されたワークショップは、レユニオン島からの語り手に加えて、我が国の伝統的話芸との比較のために落語家の古今亭文菊師匠を招聘し、研究成果の社会還元を目的としたアウトリーチ活動として一般向けの口演を行ったものである。

2017年12月9日に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・情報資源利用研究センター(IRC) 設立20周年記念シンポジウム「人文知の資源化とアーカイビング 情報を育て、活かす」において、「インド洋民話のデータベース化」というタイトルで、本研究課題で採話した民話モチーフのデータベース構想についての報告を行った。

2020年3月1日に人工知能学会第2種研究会「ことば工学研究会」(第64回：公立はこだて未来大学)において、「リテラシーによるオラリティの二重の蹂躪 レユニオン・クレオル民話の事例」というタイトルで、本研究課題で行った翻刻・翻訳の作業過程で得られた知見についての報告を行った。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

国内における位置づけとインパクト

本研究課題で刊行したレユニオンの民話集は、我が国では初めて紹介される地域のものである。また上述したワークショップのうち11月21日に開催したものは、同様に我が国で初めて行われたインド洋民話の一般向け口演であり、民話集と合わせて当該地域の文化についての理解を広めることに資した。

国外における位置づけとインパクト

本研究課題の成果のひとつとして刊行した『レユニオンの民話』は、まとまった数のレユニオン民話の外国語訳としては初めてのものであり研究代表者小田が今まで刊行してきたインド洋西域の民話集と同様、現地還元によって(既に発送済である)高い評価を受けるものと思われる。

また、2017年に招聘したイザベル・メツゲル＝シヨン氏は来日前後に以下のように現地メディアにおいて本研究課題を紹介した。来日前：地元で最大部数を発行している新聞 Le Quotidien de la Réunion の2017年10月6日版第18面「女性の語り手が日出ずる国へ」と題された記事(図2); 地元民放テレビ局 Antenne Réunion でのインタビュー(2017年10月27日放映：<https://www.linfo.re/videos?ps=1025216>)。来日後：ジャーナリズムと教育をつなぐ財団 Globe Reporters のサイトにおけるインタビュー(2018年1月29日) <http://www.globe-reporters.org/campagnes/rendez-vous-en-mer-des-indes/carnet-de-route/article/l-histoire-de-ti-jean-heros-du-conte-traditionnel-creole>

なお、語り部の最長老であるダニエル・オノレ氏から、2018年10月に開催予定(当時)であったレユニオン島の公的な催事である「フェスティバル・クレオル」に日本の落語家を招待し、地元の語り手と共に口演を行うプロジェクトを、レユニオン・アイデンティティ擁護協会と共同で立ち上げるよう依頼を受けたが、レユニオン側の予算不足とオノレ氏の逝去で実現できなかった。



図2 Le Quotidien de la Réunion の記事

(3) 想定外の事象による新たな知見

レユニオン・クレオル語の正書法が定まっていないために、文字起こしの際に語り手とのコンセンサスを得る必要がしばしば生じ、そのためにテキスト校訂に予想以上の時間を要した。

(4) 今後の展望

本研究課題では民話の採話と翻刻・翻訳、またモチーフの抽出を中心に行ったが、実際の口演に焦点を当て、身体性を含む様々な聴き手との間の相互コミュニケーションなど、オラリティ特有の表現をさらに分析するため、2019年度より科学研究費補助金基盤研究C(特設分野)「インド洋クレオル民話におけるオラリティの多義的共在性」を開始した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 小田淳一 | 4. 巻 SIG-LSE-B903 |
| 2. 論文標題 リテラシーによるオラリティの二重の蹂躪 レユニオン・クレオル民話の事例 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会資料集 | 6. 最初と最後の頁 9-14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 小田淳一 |
| 2. 発表標題 レユニオン島の概観，レユニオン音楽・民話の解説，口演テキストの日本語訳 |
| 3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・情報資源利用研究センター（IRC）設立20周年記念国際ワークショップ「インド洋レユニオン島の音楽と民話」 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小田淳一 |
| 2. 発表標題 レユニオン島の概観，レユニオン音楽・民話の解説，口演テキストの日本語訳 |
| 3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・情報資源利用研究センター（IRC）設立20周年記念国際ワークショップ「話芸の競演：インド洋レユニオン島の民話 VS 古典落語」 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小田淳一 |
| 2. 発表標題 インド洋民話のデータベース化 |
| 3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・情報資源利用研究センター（IRC）設立20周年記念シンポジウム「人文知の資源化とアーカイビング 情報を育て、活かす」（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小田淳一 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 | 5. 総ページ数 457 |
| 3. 書名 レユニオンの民話 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>IRC設立20周年記念国際ワークショップ「インド洋レユニオン島の音楽と民話」 https://irc.aa.tufs.ac.jp/event/ircws-2017-03.html IRC設立20周年記念国際ワークショップ「話芸の競演：インド洋レユニオン島の民話 VS 古典落語」 https://irc.aa.tufs.ac.jp/event/ircws-2017-04.html</p> |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|----------------------------|----|
| 研究協力者 | リヴ ユ=シオン (LIVE Yu-Sion) | レユニオン大学・インド洋文学・歴史研究センター・教授 | |
| 研究協力者 | アンドッシュ マリー・ジャクリ ヌ (ANDOCHE Marie Jacqueline) | レユニオン大学・人類学科・教授 | |
| 研究協力者 | ジャンス マリー=アニック (GENCE Marie-Anick) | レユニオン精神衛生公共法人 | |